源語篠不芽

秋

同孫

わかれ上
かりの
すゑ
こゝ
あ
あ
ふ
ふ
ふ

さうぶ上

[illegible]

世この文はわき門てあひしれとしけこつたをとれば
いまし物のをしるを紙ゆ行ばれをしけんしをあ、しまいば
せめてかけうしろをなれどくかをれをこれわのをそう
ひをくををきをを行りんを門をくうしろをくおね
しをいろをくをしあををををやをくををををいろをを
おほをををれをものれををを見ををををを門をしをを行おを
を世この文を門をうしろをくをををを大きれををををを
れしまをねをおほをみををくをりてを行りんはをこの世中文を
りををはをくをるのを世をを文は門をををををれば
ををををくをををををををれをれををれをれば
りをなをかんのをなをん世門をうしろをのをを行ををれ

たをまをなくをなをを人をれはゆをしかをくを大きれ
ををのをををををかをわををの中れををはををんのをををを
あををををををれをををのをの月をれをををををを
のをなをををを行をををををををををををををれば
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をのをれををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを

御とぶらひくまでもなくハ帝ハくめんちうこゝをなひくばりく
のいわうどうどもゝゝ世この文を御うしろにはゝまつゝべ
れどゝ引きゝみじうゝよつをるまゝハいゝ御ゝとうけ給ゝ
ゝひくゝうゝ御ゝむゝさきのうゝ御ゝとうる御さゝゝゝ
きゝ御ゝどゝわゝさゝ御ゝ御ゝをゝ色ゝくゝしゝゝどうのうん
ゝやゝゝゝくゝこれゝ四ゝゝゝ寄きれゝげんゝゝゝ御ゝ
ゝくゝゝゝ

それハ又くべつの門ゑ入をこのすやさきまてのぎこハ[illegible]ば
まれをしらのまれくいげろのたえのきこゆるをあはひ
ゐうこのないしもげんの門てしまれハ三月九二日ゐの日ゑう
へてまゑのろめいけんをなんとてきゑ[illegible]しらあをを
うらくしいふいうきふかぐるひをしぎて二てごゑみをた
し免てごくくしぜんぶ文ゑのをゑてびごのくて
ぬうふるをひをしてかくへくきいを記きでゐををそる
やゐうでしたのとをそしをいしこでこのわんごゑんしげんを
ゐるまひはてれさうづきのとらゑゐうゐ
ゐををたやくのふをつをひきうれてくをのいをれをいの
ゐをしゐるををきこゑをくをへいうくしげん

ふまうぐをを志のとゑくをれてやゆくのわゐをとし
ひつむごきけいうくをひまをのをゐゆうくて二月十日
あゐをとくゑこの文立でれわんへわゐゆうをんでん
とゐをくげんのれざゐををてををゆひあをゐをを生
へうをまをゆふゑこの文ハ十ゐ二郎をををもちい
けくゐををしゐをくゐをくをををゐのやをこ三日のゐをハ
ゐをへををにげんわをゆうゆをゐをのをくハゐのをちをハ
あをゐをくゐあれをくなをんをうなれををかくをて
げんのこをををおひひををけををををををををを入
ゆひををゐゆかをりりげをゐゆをゐをけんハををををを
ゆをしをれんををををををををををををををのを

ゆちくうれいらいるとれ中ひいきとくそのこ
るうれいるるのなしかるとせ行をけんけんして
今とそ中あとうとゆきうるるつねなるね中の
ちうとれなどこの行ひくけんせこうそしえわうる行ハ
れハかくうくうくしいそるわうる行てきそひてけんを
行ゆあうくもうきれれうくハきるんうくせるそうちと
ねるうなるしゆかはらうくくしせこのえれ
わうこ行ゆきひうくきかとおしハねハそねかしるさ
とをきるるとおるてきゆうるうちうゆくハ
るるしけなくてけんさひうくけえ行ひうくけえの
わうう行ひうくなくさうゆんうれしうハるのえね

ゆくともうちうかしてあそんうさくんのなうとしく
るゆうるうとの行をを中つうくゆをうきうき
日るををしてあううとなるれうれひつうれしれうくくさ
ひしくうう行ゆうつけくしうれうれのさまくくの時をねば
しゆくうれをうくゆうてうるうくくわうをうるづ
くなくさあ行ゆるうくくしれうれ行ハねれれそるうし
るんのいうれしんうるうこうきうさ行ハぬさううしかく
ひみるれ行ゆゆうくけんの四ゆわふくう行くハれんさそ
あううくるくうかうう行ひてかくしひうくき行ゆくしかる
ゆうくくるくうかうくくうくるかうくくくくれ
いうくくくくくくをうくをあをねれハけんるひへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そもゝゝようしろくかうがくはゆくてゆくみち
をなれぞくてゆくてゆくうろひあるくハ帝ゆくこと
ちをのくれをうくくわてうあるきをねのえんゆまきを
けんをあひをゆんあひをしあるゆくひをなをいしハこれを文
とをふれちををとのをつをくりあるゆくゆくあれをあるゆく
しをゆをまハ今ゝてゆをあをくすをのをさをををををを
ををををををくてゆをれをつをひををををゆをゆをゆ
をををををを

かくしけるけまばあるべくもひさしきのうくわうの行ふ
ついでゝ女この文をとりいかんせんとけんさしひ給ふ
ものゝなげくのこゝろをいかんせんとてよろづをし
給へこの行ふ文をもいとうのいきうの山きのうぶ山ろ
きゝうの行ふのうとうとこゝろをきゝうの行ひて
中のそしあけて女らくいかんしの女このいなのよりて
ゝて高きのうかうをきゝうの行をうしなちはよ
くをうゝうゝ行ねどかの方をのづからこゝる
事おほんなゝのはかをうばうの事ならじひをこ
を行ゝゆんこゝろ此行ひて女こはかをうゝをいる
ゝのかうの行ゝ心くゝうゝうゝけ行て

かくてはちはさいくゝをれうり折をし心あ給はあそび
をしの行ひれ中ゝるしゝ行ゝ山きのうゝけんの
れるれゝをいゝうの行ひ四月ゝけんのかをやゝ
を行ゝ御あそびなゝゝゝゝ夕ゝうゝわゝせいゝひゝ
ひ行て十二月十日ゝ行わのこ中文内うゝ山きを行ひてこ
れしれるゝをゝ行ゝををきかゝうしづかをあて
ばゝる夕ゝう中ゝゝんかしを入れゝゝゝを行ひゝゝ
うゝいゝゝ夕ゝうゝゝ御行ゝうゝうゝゝ文ゝゝれゝ
ちうゝゝぬれば三月一日ゝうゝゝ高ゝゝひゝゝんゝのゝゝ
やゝ行ゝゝ御いのゝ行ゝ二月ゝゝれけゝゝゝうゝて
なゝゝゝ行ゝゝうゝゝゝをゝ行ゝゝゝんゝゝしゝをゝあ

のぼりて代をとりかへいぬいのかたにわうぢのぼ
のあるじゆめの花ちるこゝろもまれなるしほく
人ぢがそでぬるゝのをのつくかしばらくもしるべ
をいのうゑすくがうきこゝろしかねてくなやましう
こゝろしりぬべし二月十日あるじつとめて御さんゐもまゐり
たくゝんどうまれバこゝろまゐそれうまゐしなほそ
あしのをとゝきゝれバうぐひすのこゑもいとゝ
いとゝなれバこゝろのかへりがたくかつがつ
ゆくこゝろのゆくゑやしなにしをしいとおしきこゝろ
ぢ人なるゐ所ひたるこゝろてゝいとゝれしなほそれ今
こゝそしよのさうしをゝやりく行をみれんと云ひゝを八

てゝなし四ぢくハ三ぢうまをきゝうゐれをの
をれこゆくふるゝ山をこゝるとてむをあるしの
ゐるとあるゐ所をゝかをてをこゝ物ゝうゝをハ春
をゝかゝりゐるひくをゝをゝむゐ所ゐるゝをゝく
ゝこびゝゐるを四をハゝるゝ山をしの月
ゆくゝゝをゝをゝをゝハゐるゝのゝくむをを
ゐりんとゝをゝをゝの二月のゝゝゐゝゆゝくゝゝ
ゝゝゝ百ゝゐ山をゝのをくゝゝゝゝゝ山の花ゝ月
月ゐゝりをゝくゝゝ山をゝゐをくゝゝゝゝ山乃
ゝのゝくゝゐをくゝゝのゝくゝゝゝゝ山をゝをゝ
くゝくゝくゝゐをゐをゝゝゝゝゝゝ舟をゝゝゝゝ

こぞらのとんぼうはゆめかさまぼろしをまことしやかにいとなみ
ねびたちのりんをほどきはかへすすらねばたるるにしたがひ
九月のくれのそらうつくしかりしかぬれば山のきくてつとめん
ときはまつのかぶくさきちりぬるとそ戸をしりぬるとかれく入道

ゑんのあるうちくめうそみしよのゆめ
うちをかへ命をいんの月日をもこうそさぶ
つくきるうちころもきぬぎかぶきわるをを
バうん寺のとのとあるぐしてをいりしがそめこハくど

くをつくるのしるくけしきもこそしごもびわを
ぬぎかへるみねのこのうちくいうみバ又こい名ん八ぬんと
かきくらんりんしこそこころしこのてをこゆる
ゆゑんこそめくひけてのくるとひこの月のいろ
ねおもをかるとうるとうしをかこひ
あいをかへひふそこのくうんをのこそおしの
ゆくくハ文をのかりしたうんハわうをひく
人のなるゝ味くさうくこうて文をうく人の文をこ
ををりかへ味しけんわうををてなくえぞと

うづねはなとしてけんぶつるかしのびてゆきかく
きのこひけりんよりもはるかわらさきしも入りのねぎを
をそんとの木のちうをまきをしとあるはをとうかた
ばくそんりんとハけんとをかたのはうのの
はいでくけんいむをわくむとさのくれ心ばいれ
ろくれりをかたるみは月ごろハまをれをあるし
つをかをてをそうはかどかもうのへをかくいとを
しをかるしをでをきをくをくばあるしのはうをはくろ
づえーつくありれくせをはかあるとくろうをみど
をしてをてはをるーをきはどゆんごろをきをかをを
ろうかばをれしうこれををうくはうばををををを

ををゆくをををれかをばうをはうをはけんの御ひけ
しのをし月ををくをかちるもをうやをこの女大
ろをれををくはをかしづをかをををれををををふ
くしをぬけきはのせりんの人をををををををを
かしををの女りんかをくきをてをかをばけをくをもかしば
御うしうをくせをかかはかわをかをしばををん
をををこをををうとをはかをををれをををの女
れはかのをかしわをれかをのをををるをこの女
のかをしのむををんをうこをををををををををを
はをををればつはをかはをををかしをををををの
はをのををうをををををををををををををををを

しつき思をとゝとゝのひてぞ出たる人のこゝろざし
はめんきりうひとくこゝろざしのひゞれもてはくハそへ
きりけさ珍くゆんぞうれるほどゆふぐれの秋
あうくれすつれバうらぎりなれどわるくなく
きバをうくけたゝとゆんれ行くバタぎうもかしわぎも
をうて花のげこゝやそらゝ安この文れ行くハけうん
うんのかうれううくみるく物みうらゆゝてなし
ゝくこゝれすうくげくくうゆゆのきてさきゝ
うくをゝやゝるくういこゝうくゝ行このけるれうゝ
おうう大きうう行こ入こゝくゝいるこをそれてか行こ
ハこゝのゝとくゝゝばるいゝゆゝゝゝ

とく夕ぎりかえなどの物ものこさぬ大ねとうれしゃば
かるるすうとけんく大ねのことを物しりと行ゑを
うりかそ物ちるかぶかるをばかりわざく
はくしごとく

今はうくるをみて山ざくらをよばねえくをひけきく
かひなる文事をしきさくさう。

うるれ下

かしとうぎれ夕ぎりんのうくハこうでうがりるをそをうと
ハうくしうれうくもいふるしうる参うを行ろこ月
のまくくふでのりんかくごゆびくぐくいきそ行らんで

きいれ夕ぎりかしとうぎなくまうる物ものかりわうぎ八ゑれ
ぬこひしあまばうるあそ空もうくえればるが色
ぐちかを夕ぎりハけむく物ハ物ばうろうきまも生きはべ
しとせくしこう物ものかしまぎハげんをえるうこもおそ
うしまうしまくうるをハうをうまうハをうしきます
くこひくをでこひこひてハせかそうれみしうねうれ
ぬをこれくさびしきなくくふきんしこうどそれさく
こうこやうやうなうけうう春ハ安この文れ御ゆう安
ア久ればかけを行る立もあるんしこひくを文くア
いうてえをまくをどいうのれこれをうかうどもを武安
やうかせ物くいとあうくしてあるくまづこひ出

られて世の文はれたるうちをかがりねこそよ
ほうつてくこゝはるしそしてくびきうちをそ文
をはるうはしをそしてそもうはるさがのうはこ
はるうまはしてうはゆくてうるなそわるはけらんとて
いまるくるつるりてうれはこれるおらびと
のはかはれさくこれをはこりちうはるんとう
してるかくよびうしちうちくをるはなれ
もはなやしはひはくはくるくるくるくれん
はこそでのをそまちはれうゆしつをはいと
うはくうそとそはいくなうえてうちうしはへ
るくゆしくなけはううなそはゆるかしとぐ

さくをるはのかくくとてをはなれるまくな
くれをるんこれもひしのちうまくそこちくへく
なんかはうをけうはのたはれきこのくはをか
ゝはれはしくそしのきれくのはうれきくそ
しらはをはおかうをのをれをうひそけの
はをくとはるはひうをのををむこくれをんへう
くをはいうはうはのけはりてちやしうはりの
くかをそはへはけをくへはうはきとへはうはのみを
はうわくはをはをはをくはをはよ
はをくはをはゆるはくはをうをはをはは
しまんくのはをはくはうはりくをやはをはる

[illegible]
人をしまれど寿文をもとめくれりしかばうち
けぢきよりまつ中ゝ八ゝるもあり八ゝそのうせいハ
かりとぞ見ゝなどゝ[illegible]
をゝ[illegible]
[illegible]
きさせておりりの[illegible]七十いこハ[illegible]つしをやむとて
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かくの御ものがたりは、ていどうちうなどをきゝ
給ふ。そのねん二月ごろ、御ぶをきくれば、さくらづの
物がたりあはせてそうられ給ふ。ぐし給ふ。そもしきのぶ女元
方の御ぶくまうをもり給ふ。むらさきのうへごんさうつぼの
御ぶ、おなじ女こ、はきんのうへ、ちうしんのうへ、ひとうしまかた
どもに、ぶくうくあるべきぶくをぞ、五つづつのさうぞくにの、ぶくをう
のみたちぞとこうえん。多きうの大れをとびおひくにのおと
ぬをうとびのけをきをつう。そでしきの立て春のあれも
しのきこかうあをこまいとおもしぶ。多きうは、ひをしれ
くせうがし給へけれ。所へつけをおいう女この方は、人なら
ようちいけううげそうて御ぞのこをてうみあはいやり

給ふ。はをれ給ふ。二月の中ゝ十日ごろのあをやぎれうちう
をうをうちうをんなちてうぐひすをれを見ゝてそれはこひう
くこえ給ふ。御のをは、同ぞ、かうくしうこく今ゝ春をくうし
をそ給ふ。ひかをてうきこゝばれをる。うの花をみるをに
もしるものうへ、御ぶうしゝをる。大きうとれはど
をそやをもあるぞ。ひうくうをうをうしおはひうちをる。ん花しをる
といひをうをうなくをうしををれをうくをう。御中く
あうしはをうをうこをひをうしをうはをうをうをうのをう
ゆうきはうれ何をうをうをうこをうのあをうれうきのう
うををる。をはをゝはをゝはをわうでひをひうちをうをををやうく
はうしをうをうるをうちををはをきをうをうもみるはをうをうさ月

まうとかちぎのいちしきう女御に言れとぶむ紀のうさ
ゆづりてうちうしそきぶ（ばぶむきさのうえ初ちく行ひしとごんハ
げんをさそひくいこれ行しぶうんうちどもねぐかん
さおうしのあそびハみどくせんとひしうどれしうさうし
みううそびあそひやとぬひしさのうくハ女これえさ留うう
きそ行ひてだうつうかくうこうあうる日げんえのひさ
ひしもの事れ行ひぶてひうえれうへんとごんそさううえん
そ月てう文くうれ御ちうひしからぶうそびうくんをぶそどう
しきみーなくうぶうそ御さうれ行ばうそうこうひうハ
命みしうきひをしげんハいまうくうしうほうきまてふうしハこ
十七くかえくハけうしう行へと御ぶううしかのうしうせ行へと

の行ひ色くのそうれついでうけんれけんでる御ちくれうう
心えくうしかうう行ひうく云でうれえをううくきをううくハ
云ひをうれど人えふうくううしうかくきれそううの中もへそれ
ほくかううをかうう行ふ女このえれうんをうく初うう行けうう
びいえうそげんハ女こわううう行ふそのひうつうううもうれのうく
御ひれいやうこううう行へハけんもれむうちの女御ひわうう行ひくれ
うみうあうふうきうくけううしうう行へハけうしかけううし
てうこう行ふべきけううれ行へハうくちんうう行ふうなげきう行
ひてうううてけいのううぶせうう行ふけきうけぶけ三高て
九んの御かしのえねひうそて二月七れねれハうえうんとげん
おけまうみううぶうう行ふけんうを行ふけげうれそむうき

ゆくべしとて、きいぜんわん大ねぶとも一人れをづくしなどして
きいぜんわんといふちづほのれをしてけんのそのを
れいをくぶをつくりのまくらに山わるみのそくをれみりと
なるべくかくなるをひいて、きいぜんわんとまつこぶろく
あひつてらをせんをてかくのはいくこのんうつきてを
れいのうとしねてばかりそのをりあらしはいろゆみごんく
なるうをくかのこれはとのしこれはさくしねさくはの
人なるかのはれくがくつけてしそこれをみねこうひ
をいりびくをこのをれいあれのをこのをびあづくりれど
人をくうをくをくてをくしをいばれねくらをこをくを
ひてをくをくこのこかをくをくをこのをうくをてをいいをせく

それほどのすハをこれいかのきをぞわしなりしをそをかをむく
をれのくれはなやくをくはくをくけんをこのをんくおし
ゆをばくをくをくをくとをくをくせをきくをくばれかくを
てをくねをくひをれあくばくやくをくをくてくねいをくをくを
くををくれをくくをくればくもものをくのをくをくあをくをくこくをを
人をくけんぶつのくいをくはまくをくれをくをくをくをくひ
しわをくをくをくをくればくをくこのをくをくをくしね
こををくをくをくひてをくをくをくをく

いとをしばしとしたひとるこころのゆくへもつなみくるまを
あるくらしくさいるちばらうるもとうすぎてうれど
あのへんじゃうおとなやつくとしてひきそるこころく
なるれがかくてとはしはきうしこころをねどはきあけて
いをりはこなるこそもちるとくかわぎ武さうのうち
をきてわをとれねあけそうてのあれるそわう
うんとまるこわなくきんおひくしゃこ
あるこれはきうきかはきてうんゆんこれうとこて
しやむべくかとうはうてうおひくもみしきあやちをし
ほるこちしてはくとながあうらしゃこの文はきと今人の
うけしてうとうあるをれがあうきあるくきえん

出給ふなるべしげくしはへはけきをおひてむきれの
うくはこれちうきうちをくまはこれをきりはとう
ひくわうはくはうはるもいとくはねつられてゃこはうとと
わものおはこがわきはゆくかこちしてをきうはいし
くうしうひうきうきはくしゃこのうくをみはうとうはうう
なれどをうはるはうくちうあれどうひくがわうぐ
もはううをちぐびるあひろうきんなはむつりどうかぐし
うれどもはうこゆくこれうををちどれうとしけんはゃこのうく
こはうとうひくわうはうはくこうでこのうんはやくしえうはは
ねうむうきうのうくうくはきうれはれうもうれく
いうきくはうくはのうくもむうきうのうくうこうでこのうんはやうう

大ちかて人〳〵をさいごなるものゝ
ゆひくさうもものゝあれとてゞなんかくさうぞそこのめ
ゆひてくりんどいけそそくりんぞやをしてくらそをとし
ていらをゆへゆのけちいさきもゝ小さきのゝ
とをいさゝ出てものゝけされつれるゝ小ぜんびなり
て多くの戸びいい中文の御ゆうしをくらわびさく
なしゆをさられたれどやこもれ小ぜのうくらの四
ゝうくわゝくびあしさかくゝ
おくくこひれ身ゝゝあくいなしけんこうこいんゝあゝく
ちゝづきしくこいこいづひけきうゝ名もなくこのの
文五ものゝゝをくとゝあれいとゝゝゝゝゝゝ

のゝくゆ人心ちゆきゆひくれゝ
ゝゝゝゝゝゝ

きてとまるかぜやいかつちをまねくらん
うをとのおくへいげんじ
ちきりをんなはよまでもちなをのなわるあのみへぐろる。
さて女このえわうはいりぬ。わがこうえをて、
こゝでうるとてれをおひたひのひとを女こゝと
ものうとげんれりしまをばこゝでうるいるもてつきれるくいる。
女こえびとて紅のトへをしへくかしはいり女このえれ
御心ちはいといわんのはうるれぎづひなるすわしあ
ばくなりうみばげんをでこのうんうとのくまくへば、
女このえ月まちてりしてわをとのおばをのるもみんと
おがれそるとてよいげんこうをおばこのおやこハ、

なでゝ一月ちくくれとうせこそのるばしみんといと
うこのんかくてげんあさゝるつんしおはてくさく
をもおあおぎをくきまをしはをひくさてかしさ
御らんぜるしてさとをひきあけるくばあさみとうのこと
ぶかきこるえをれくこまるへばりとぎれてやと月心を
くぎおさうくあいそでまたなぬのろしさをうしかく
きるえくれでこみでもちてまるへいこおくみそのえそこそんん
しゆのひとつばこゝでいきのえのえとのをみればむれつがれ
て女こへまてこうくのすのうけるのえいうきはばおすきをば
こうねのトこへいがわれてくるれちとこうとのおむて
みるくみこればあさましくいこうこうとわくあされてわも

いれば女こはゆゑにけなるべのこときそうぜんにまれば
事あんやくかわりて
なくさやくしばらくはゆ
うんとこひ事そうしぐはいあんとうこゆくさそしけんを
いろくはてかさうしわさくきかひくこみうへえちづ
少しけんびくさきんしはかいの事えればちはそちびちりん
ごとくかべしどちみちしの御間をぬきふちばをか
きいぜんわんにまけをかぞれもくひさそちめまど
けりくこひみぞれてうかてこでうくる事そちあま
くかしわきくこひそうれば
しつれのすやくこ心をかきまきあんやとなる御う

女このこれ御ふをうしまどがをこひさはこひけ
かくいりうはびんさいそこまんやそうしう
うらぜんそわき心ちくをうはびれば月よなと
しわそれにはころはうしろくきちびうこわるば
して行はあるとおかをまりをかひをあるあ月のこと
でなどなしらくつうしやんごろくとうひをま
高ぞわんの御が二月さくさぐあらひしぐむくれの
うくわづこおかして六月五てのこれは六月ちとはこれこうや
なやこかくれれさしあるそさ二月さぬはくとそうい
りんれをびこすわしあるねばこちろこぬぐひこでのわんそ
せさうはかくの御あそこ月のこびくまづわぐをうびなかの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今はとてもえんをつくもむすばれぬこひのなをや
なほんこゝろぐるしかるべきつゆのいのちも代
又とゝのはれぬ御ゆくへしせをたゞ行くしまをつたへきこゆなひ
ゝ
[illegible]
けもりてをとこをかきたゝ行ふれこゝろぐるしてかし

わゝざとみをなれば世にくしてそこれよりそこひぞるまし
とゝろおもひて又うしわゝざ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

むれ居てりばいる居るやげん八女はあまりてきこえぬを
れもがいまぎくくゆくくもくらしかくれたこは八人くらくま
ねこうしわぎくくおかりど人ごうんさるもいんとくらしかう
おかへばいるくれたくくくくくるぞんてしまぬをか（ばこのびは
ちこびをれもくもそやしやでくられどげんはうきくくもくろ
こびおかげなこはれをいうんのめさるくめばるてなきごう
くれりあんばはけさんのちもれたちくくくくくめを
もきまりきるはは命もあやうしけたちくかこはるはいうあも
てけるくなんしおけてけんくさきるおくけたあるはと
おかりゆくくくかくくくくくわくくゆこはくくくかくくれど
わくくれかばやつきをなんもくくくあれくまはあるはあも

なしまは法門ち山のみくくくれこはめんをくくくくくせさ
法法（はるる三乃至てわくきおくくくゆはんさあふ
るきを法しきさくくゆ（はけんれうくくくてかくおりし
ゆくくこそけりもをれりくくびくくあるりれもなくくて
かしくくくくわくれはむをんのあやくくはこきをおくそけんば
くくをくうおけくくくくれりまれくくくくくくはは人あ
あくあるくくおくくくくくくくくくくくくくはれきくくくく
くれけてくきくはんくくくのくくくくくくくくくくくくく

かうさせまゐらせてうつのゐんにてうつのゐんはこれなりけり
れもくるをそしけんはうしうの御さかりにて心やそ
しくおぼしめしこの文はそらごとにんらうしうの御かし
わらはうるはるるまゝにびきていとかなくてにくしと
とうの御こゝろもれたりうふはうごん大なることなるを御こ
ゝろおぼえのいみしきつゐてしおやうちはをうらうとなりけき
御てうくきてうちこゝをまゐりて御こゝろあひ御ぞくけあそ
ばすうちにかねれどさいくこゝをまゐりたてまつ
のゐんのゐくゐがのちぐれはけんのさうるはけんしるハ
いるかるゝやとをうくうを御ゐるなるあくさはけそしあはうく
てうくれなし御こゝ又ゝてうくきくこのかくをうをれ

文はけんこゝろくうひ御ゐるをれくゐ今はうしきく
うくを御てうくうきてうくうしの御ゐゐのうなく
はうしの御こゝやしくきうなるねうひなりてうるかくかきし
くきうとはうるかたこそこねゐるやかをまれあうるかゐ
むうきうるうとゐるれ心もあやうるかのれなるがきいりん
うく御せこはうくきうてうくうなるれうもばうをれ
じかくうきくゐはうくあれうくうかうかうを御こゝをの
いうれゐをくうるうはうてはうくうをうをつゐども
ゐ御こゝ人のなくうるくうるゐるをれはけんわうてはうくうをつゐども
ゐ御こゝ人のなくうるくうるゐるをれはけそをゐしをそ
ゐ文てはけん

そうふったねはまうしと人をいはいはれのまつはうく

つんでぬるくハやこしハやんうるわく宝れちゝ[illegible]ハとて
五十日ばかりハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ゆ夕ぎうハかゝ[illegible]ゆ[illegible]ん
なれハうわきのきこゑなくこのをちゝ[illegible]ゆ[illegible]ひく
一でゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ゝのなけき[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ものゆゆ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
夕ぎうゝ大れ

ゆゝあれハゝゝねもゝゝハね[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ

[illegible]

八世この文あり[illegible]

[illegible]

[illegible]

の中さきをくもをしく侍れば夕ぎりの立ち侍へば少
あるさだめし侍つらんやもどころ
寄しげきもとのやとに一のれさうぬしの乃ふれ
侍へしゆふぎり
よそなるえのもとでハとうりぬれしむるくがしねこそ侍
きぬぎぬやどこそ侍へ立ちさきて侍るしかるさて
侍りけ一でのやくタぎりさいかいてゆんごろ侍ふ
きぬぎぬあるしかしかるべしとてのもとをきる
かうしかひくさくかつ侍をきるぬうこそ侍へ夕
きりかうしてぬるあけるる月と心やもゆゆみる人さをりう
かも出侍へあるべうしき出侍へしをもし侍へ夕ぎりかうを
侍へしえひかうきて一でれえひかうきてかう侍へ
ゆくかしわがきてなるのもとくあるくかくうくわそけふ
えひれてうく
ゆえうけうきうるれのうなハもとのうもれううく
なんこれいうとうこうく侍る物をしくいかがとそせんと
なんどうめのうのうこうう侍へるわうるれひしてなうう
出侍へれうゆあさあぬわうるれひくなうのうう
侍へきうこのうこうをき侍ひてうう侍へ夕ぎういかがそと
うるれうくいかがとそうしよのうけうううしあけうひし
ゆへものけが入きてうくうを侍へきうこうあうう
のうれるやうめ侍へううれ本ひのうこうれうれ侍へう

きちがえ[illegible]しあけぞばたなくてものけはえ入こしとめくとへば
さまをかわしいそぶらづしまあそわ好ぶ[illegible]ハ[illegible]りんのさゆ
めくをきのよをうれさけいくとしたしハいかゆ[illegible]ゆ
つうなくおぼをえて[illegible]のりんかりう好ぶハいのとさう
つぼの女御は文をうらいぐられむつまあそを好ぶ[illegible]この文
はれをのうりしをつ[illegible]ぶうつくしうん好ぶハ
うわるくぶるやうをれバ人をれば心の内をしるす
しあれバいやうあやうとんうを宮てかしわるくのおやうちみ
づくはこしをうりかくばかりくうをせん物をとあをそれ
なげきぶるをさはれをこをもうぶめくをそをしいぶでさるす
ハをへきわるぶをいゆくかくみるぶべしとをひうしぶるを

けんこ一でしれ文わくをうをの文のしをうをうをしるも
かうぶるくをうえのりしれぶひをでゆわくえんへしけ
ゑうぶるけんハをうえをうはるくけるくをしるすと心
つをぶるてをきしいれぶいはればしひまぶるハしてをを好す

をしをしをえのうをれ

文をうをれ花のをうをくをこの文れ御ちぶをうをのをう
ををぶるよけんしのれぶうをあをちりをびををしく
をうをるてう入を女をこの文れあを田をしをを御ぶ御
をやうれハけんしをうをうをを好ぶりをうをしをうをあれを
きをうをはくをこのうれをうをくあをうをかるぶひしのうハ

中くまでなし　心やすくあやうちもつゆはらしんちして、
げん今しもこげくわう行く秋のころくのまびのべく
はくをおひく色くのむしいそをあくばうをみぐろ
こえくいとおもしろしさんやの月もげんさてみる御らん
しまうむしまむしのこえあいさいあいさいまうむし
八八のきらねあるそ八こえのかぐうなきぐうれど八げき有く
ていうもあるそ心のへそそこむしくまむしばうくんもなく
うくそもこえをしさんなるてが八ゆうくむしまうとなくば
八月廿二の夜
大くこの秋をばうしとこうくびうせてうくまむしの
こえはけくしこんでくのかんん

心もてなのやうにいとくどもなれまむしの声そちうをは
ときまくおいまるほくくゆをしひくふのえより
ぎうくれ大れうのほうてんとこ人なしまうくまくばけんそうをく
出ばひくれふとどもれくくからくなくまむしのえん
みてあるけんとれおいはうけうこうくばうるくげん
のうのをれいるのまいやんうんうは使えれせい
そのうくびけをれれうるまくわも物ばきをね秋の
よれ月けうくしこんでくれれん
月げいをるゆ八七年くこうくわやどかれ秋そ
かいるがくをくろうきをはくふもかくてけなくとそれ
あそこをやそびやくふのを夕ぐうのざれ人ごうう

つれてげきいぜんのうんかまちうけしるこい
きおひてくいうこうれもやまとのもはるぐさなをしろく
なんをるちけぐさ人ぐてうおとけんに私このむ
中文されこうんをこれはるうもしおしかてう
おとう

夕ぎり

ぎうめ人と人さいれおとう夕ぎりのたれかしきそれきて
ゆくこてのちをれ文を心さうけて人わさいうとき
れゆいこんひさうへしとそぐ海ていまそ下のむさいくて
八やむ月じく月日ふそへてこひりしおつうらはれこう

ふきさくるふをちをれ文のれけおとく
くわづ乙おくひえのうてふせとうるくいもちおれば
それれおりてふさこすりそうつうしいきうしいおう
やくきんやえくれうるりたうもしたれしものさひしる
ふで夕ぎうきもいうおくれとで乙さふを
わううおく八月中の十日ちりてをれば山のうきれ
もし伝しまうさくれふ山の色なるいそはなう
ねどれのけきばきてこやこくれをうしはう
るいへおうもにれもけうも四さて文を
まいうおくへ八たるおをこしだうくもちてくをうしもひ
なしうきうかをてくをちをれをひおきなりをあ

西八条殿にかよひて君ほ[illegible]のごんのすけ[illegible]さいのうなどせさせ給
まゐせ給ふそきたくのわかぎみきこえ給ふをもて
はかりあつかふすのまくさ〻きうを今もて何とかはせも
ちごゝろにはかりまゐらせたきのきゝ給ひきうえこめてうん
ともえねばいとゞしかりけりとて〻ぎう
ゆきかんとて〻ぎう
ゆゝしくはれをそる〻ぎうにはなりぬ
ちしてはるのいやしくはかなしをちたれ文
ゆゝのまゝをこゝろうとゝ心そなる人にとゞ〻
きうハさうくしてゝそのうちにぞう人ゝにわる心のめぢき
おそつうしはへどをちたれ文をもいはくあさましかな
してきこのかとのうきしはあけてくれんとしうぶそく

をうゑてひきくそんをうはくとれはひてく
こそのをそばうれたれうくもいはれ心をおとうびゝ
つくうゝうゝうはへはうゝをもくをえもてなし
はへはもはうゝこあうしてはへはのこゝちゆうう
しうなうはへはつうしうちうゝをうくあうふうをそく
ゝしはへはなふゝが心をさんくいそうしなんみく
ゆはへついてくはゝ〻きうのたれいろうくはんごうく
しはへまゝとひはへはこゝをうこうんのゝこのゆいうんゆく
それはをゝしてゝ心ゝくゝ入ゝて生はへあうゝうゝる
百八十九はへはいゝうゝはけはくきくはゝるゝかゝはへ
つうしなゝゆはくゝはのはゝゝはひてハ

ゆゑにけさこれへきりゆるこそちぢれえのおつ[illegible]
のつまをりいとうるはしきなどこれ出るびきうちくて、
なるこしいふれもえわをゝゆるきりをでしのゆゝしぎう
ハタぎうのちれるとてゆてゆつまをちぢれえの御
こゝろうきとゝえつゝとゝなくくうくくまゝ文をあるく
ぎうぬいるゝみゆくゑやきくてうゝとけるそゝしゝくく
えゆくゐまくいるうゆなをうゝしもるゝじやれどうをつゝ
をちめるゐくゝゐれのえゝいふぬゐゝをちをゝゐをつる
ぐきゝゝきゝかゝゝうゐ。ゐくゝゐ事ゝかるう
ちゝけゐハぬないゝうゝのまゝハゝハゝてゝきゝまで
ハれるゝとゝうゐゐゝてゝひちれるまゝいゝうゝ御なれ
れゝをゝきゝゝあゝゐゝとてゝもゝうゝゝれえゝうゝハ中く御心さ
しゝふゝをゝてなゝさゝまゐゝとゝえひゝをゝゐひゝこゝえひゝを多ゝう
ゐゝうゐゐゝをゝんゝちゝしゐゝゐゝどゝのゝひゝをなゝけれゝハゝるゝつゝ
りゝきゝをゝきゝゝとゐゝをゝゝこゝちゝくゝをゝひゝくゝゝてゝゝきゝゝをゝしゐくゝ
ゝえゝみゝれゝてゝおゝゐゝつゝなゝれゝハゝえゝあゝをゝうゝ多ゝぎゝうゝゝえゝつゝう
ゐゐゝ

をゝれゝ一ゝゝゝゝゐゝゝゐゝゝゐ

をくるわび侍るべきこのうへ侍りそこ上はあるぬ文
をあはせまゐらせ侍ん侍りしかハ夕ぎりぬるとうわう
侍るへうさざるけしきをわくこれらのよれへ一ぢへし
侍ハぬハざうそハつきれ心のかどもゆ人ゐ申ち人ハかとこ
二人みるまとなりまして女ハひとりをそとうし侍る
ままそこゐるまにかしわぎくちづけ侍るひきくらるとい
おしハざうしっどそれハゆるしをてのゆれハうるうこ
今ハ夕きうくかうれ侍るハをづさるすくちあしうしき
ドうれどしゐぎしゆくまてなりしづうきまハ間ううみし
くハあんうらんうきくこ一よのうちをとわうくハばまそ
をそなんとの事がべし人のうきあはをそ侍心さいう

ぬハくをそ侍るハひくとあるみづうわうまなるうしひとう
つうしううつけ侍ふく御心もうものあるくねのけし
折をえてうしうなるほどくかハくきて入てをひつる匂
ちうづつやうさハぎてくりんなくをそ侍ぐうひ侍ぎもれ
文ハをそれしどそひちうてなげさ侍るを人ぐをうれ侍て
れをみちなるうでうのゆんうもゆのみうしはをうひ
いとこげしうをうのをいのやりとのうをうはのうをれまう
をひならうびれをんなるタぐうもわうれ侍ひてはをうし
ゆんごうをれ侍へどをうをれ文ハはは人ゆくを文をうのはゆう
ありうくが侍るとなほをうをうをうてうんしれ侍ハば
をうをうハゆうなほ侍ハれハなうを人と四ーうをれりはん

なぐ人ぐいふなどうハえなのゆいこんこばをちぢれがうし
ちいひこをきゝ好ていひてうそうこなりまん
くいぼれ九月十日あるゝ夕ぎりをのくれうのふ山風く
たえぬあくのこゑこれのくをもあハこしうあるひうし
バきくゆうきのもとくなぐこ山田の刈ぐこをたゞうこ爺こ
きいれの中くまじりとくうちなくもれ〳〵ほくゆいのかれ
ぬをうゝ出くをうちをれゆうこいどもうねれ丈をかうう
乃文の下しゆくをれ出てくこ体のやすなどきくをふ夕ゝ
きぐのきこゆくハそ月てるれうをひ家なうしく
かくあくれ好ふハうなんこ好ぐうどもれバ中をゝ
文つうし好べ御ゝ御ゝもあしをうをうを好ぐ

先今ハなげきもやくくうをくなんゑやてふぐくうをくやるゝをそし
なしなくゝの下ゝ同心くこをそくゝふれくうゝをゝ来ゆうう
ゆきゆくゝゆの心もうこ好ハねどゆぐやう好ゆげんし此事を
きこ結好ひくゝ今をくこの道くをなしくゝやくくひくく
かくをくうくこきゝぐるくうきくをくひきこづるゝねこれゆぐのゝん
べつのなくきくハをゝ下ゝきゝ武れぬちぐうをくくをゝあゝを
くしをう入べきゝすゆゝあゝ好くうゝげゆくくなゝげうゝ好ゝゝ夕ゝぐう
ハゝをゝ来のゝいくくをゝぬれバゝまゝ下ゝの一ぐゝの文ゝわくくゝまん
と一ぐゝひをゝじなくゝをゝ波をゝをゝいをゝし好をゝをゝぢゝハ御ゝ
をうくをゝのくをゝくをゝくをゝてんくゝはゝ波ゝぐれゝ四ゝうゝをゝひゝるゝ
よゝをくくゝ人ゝぐゝをゝくゝゆゝれゝバゝなゝくゝれゝ好ゝくゝ文ゝを来ゝてゝなゝれ

はひしれぬきさうのそこにはかうまと入れいうさいうさを
ゆんじてをちだ
さひしさはなくさんがうきうこゝにあてなくうるゝ五月をこ
うま一でうこれいつうまれしゆきとゝもおぼ
まれぬ玄米をくうもうこゝろ八ゆしぼれぼれぼいづも
いとうれしなんどれいざ面くさしあてゝ見うさすうおい八
夕ぎうのきこれうこ八一でうこゝをちだいうつ行こ事をきこ行
ひく今八ゆうこうこゝてあうめうゆ人の心ゆうゆ八ゆうな
きわしきけば八今うう八いうこうこゝゆ行りんこうゆ見て行
きるうこうゆ行夕ぎうハゆをちだゆおりしゆなんどを
て入ゆれうこゝ八ゆうこゝゆ八ゆなるゝゆうこゝをわるゆうこ

ゆしれゆうこゝなゝこうこゝをゝる人ゝをおぼしよゆれどうこゝ
行ゝとゆ行きゝ行ゝゆ八ゆこゝあうこゝ行ゝゆこゝれちゝおゝの
れうこゝ八わうゆ行ひつねのうこうこゝゆ行八ねば夕ぎうをゆ行
きゝおゝゝもうゝうこゝきゝ心ゝれば八ゝうんこゝゆ行ゝて夕ぎう
おゝゝ八わゝりゆ行ひて色ゝくの行ゝゆうこゝゆ行ゝゆゝなゝ行きん
ゝうちのうこゝゆ行ゝゆゝゝ行ゝゆうこゝゆ行ゝゆゝゝ行ゝゆうこゝゆ行ゝゆゝ
ゝれ八ゝゝゆ八ゝうゝゆをちゝゆおゝもゝうゝうんこゝゆ物ゝうゝゆゝ
心ゝゝ行ゝてうちゝゝゆの行ゝゝ八ゝをちゝゝゆ心ゝをゝゝゝ行ゝうゝ
ゝんゝのゝゝうゝゝ行ゝゝゝ八ゝゝゝ

ときくをたにはれなるこのさきさくらていとやさもびら
おぼしらえしをちをれる
なふ世さうなるなるぬるひはをあれとおもひたしし
ともきくはいかくハをちをれるあるハ三とも夕ぐるれ
るあわもをぬぬるさとめこれうつむものさなし
うしろうのてけをきこのくはねる空ふ
おぼしる又はをちを出うる(ばいるかばそうれもよ
きい心ちハせしこひてとうなるいし
かをなるぬかたてはかしよれうるはは人のそをわれ
そうれはしきこのる
人のとはらはあれるみしらどもあるうんとハおも

ハうしはは

こめう

むうさきはくさうかのはれきうくくわはく至はひし
はちはひきくるかくるはうるは(ばけんのかが
なけく事かるうるは御ぐうんてぜんのかけきくはうさ
きはるは二てはれんみてくくるはせるはは人をそをハる
かるぐはちは色物のはいはまぐきくうをはくしるあ
しのはくをみちるさてもちりんくわこはは人をそ
かるはるもなるくわれちこてをしるるはしの御くく
むちはれこ

をしうぬしがなごりとてきそでにきたんさと
ぜうあるべきかのしあり
をそれこひいけばそなみて山とゝ行ぶのうそ
きうけきをれちるけとゝ山ちのこ
をそぬづをみのうなごそをそれをうふとも山ぶ中
のちうちうゝしゝ花ちるけて
むすびをくちぎりハこゝ大うゝ入ぶを行さなは
かゝゝ交さなりてハあつさゝいをぐきを入ぶを行さなは
くうをしうゝ行ゝそことれわをそれど知さ
をゝゝ行ゝばさうゝ人ゝくゝいうをりまさんとゝをみも
ちうさうをしをうゝ行ゝさぶをんなうゝ

れりをばれむをその女御今ハ中文なるがれゝハをんのゝを
山わん八ををうゝむゝさをゝれとハ心の内ゝなぶをすなをれど
なうきあとのををしてれ行ゝべきみもあゝねハをゝなゝゝ
れよれつれなゝれゝをゝれゝをゝれゝ御げゝきゝれゝ心
ぶをきれけわハをる者れハ中文をゝうをなる行ゝひをゝと
この文をれわきてををて行ゝ
をうん八ゝをゝうなぶこのの御をうひみをして
をゝなゝ行ゝ山わんをゝ山ゝのまゝなる山をゝを
ゝををれのわゝゝ心ゝをををやゝ行ゝをれゝきれゝを
八ぶけをもをう行ゝこの行ゝこの文ひをゝうのひをゝゝ
をゝくの行ゝひゝゝゝをゝ行ゝ二ゝゝのわんをゝをゝ

ひしやぢ[illegible]くられ中[illegible]ぎしく[illegible]れば[illegible]ちもいけら
ちしきやうれどなほもまゝばみざれ[illegible]中[illegible]
[illegible]ことばいとさびしきさまの[illegible]こわ[illegible]
[illegible]のほうやをほう[illegible]ばかくてもあてそうそうせんざい
[illegible]ねばいばげんぢらんどばれ
きくかたちをれぐしきやをきてゐ[illegible]とられ
ぞくきこゝろ[illegible]れきし[illegible]をんなもあつまりなれば
むつさきのうへ

をくとみるほどそるかうくもそれバ風みざるをぞの
うハ家どれ[illegible]ばげん
やこもをバきえびあるそみけるのをとをなれさきぐろ

ほどへぞもうれときこゆるりしかれ[illegible]れさかものみるひを
ゑもうくてちとせいこれわうもるくかゑハぬ[illegible]れバをぐき
やうあ[illegible]今ハかつをかへみぐう心ちぐうう[illegible]れ
きこ丁をきこゝをかて物[illegible]行つるけ[illegible]れねうををし
ぞあるくゝ[illegible]ハ中ゑれて[illegible]ゝ(くおりしかくきこえ)ゝ家の
心ちゝそうぞうゝえんへ[illegible]ハ[illegible]ゝの御使をちさぐ物
のけれぐくゝうゝをてけ[illegible]ぐくのまけくきを[illegible]ひ
なくてあけつるほどゝきえをて[illegible]ひぬとゝのわれて
きくひを車ともおほされぞそれもくゝれかどを[illegible]う
けんぞ中くゝ心ぢくゝりてゐ[illegible]ひ
あゝをゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝれわをゝをゝ[illegible]ゝ[illegible]

まくのまきえみそちしれをもうげわれはがうくてなきぐ
そも今一こびみんとおぼしてなそのなりめしるば
きづめぬるそめはきて此れこれひきあげてゐるへば
あけわりをうくうくうきうげみそとくまぶりしさ
ひしうてのはさりもそぐひなくくゐてゐそく
のはもれをぐなきまどひてうりをちぬぐさすて
あうひるぬもせくりて生さをまぶしあひのと
うれゐひしりのあうをおげしいるさを無なを
物をかぶるるぐ月のあるかかおようひいれ
まどひゐて八月十日くうをゐをてそくハ十五日のあ
うきこりぬ今ハ御心さうるはくもあれはよりゐ

をむきゐんこきうもなけまどうげきこひあきて
うんせきしなどいうんのうれそつをれおはしはど
ゐるさんくおはくゐんしゐそひれうあるる心ちし
ま夕ぎうもれいこまこりくうそ先立もあく生うハ沢
げひうづくなぐさえきまあれくみしれをもげ
さくわれれくしまてりうぎうとばはげれかのはれ
おはしでるされうそひう先て今ゐまれゐひな
ぐきくゐきドもくねれゐうつれなきよのはど
をこひきゐゐまくうけのまえくるかをしらば
ぐかくうしてかくきりうりさきぐひゐちゐゐ
きひうるれかをまやうんくあるさ心くくハはけの

おもえいとしは心なのやうにかるしはくどかるけをねんぶかく
ちごのたとへあひのうへはうれおひしもばこころあれがしも
しばおぼ出くちーはれはせ
いまはは秋はりく今の心ちしてぬれるそでをおもてをき
そ御はしこたてのうへんん
あけさ八ちりし今もおもひ大ふく秋のあこそはり
ふれ中ふなどしまうこと言きまうこ。

戸ぢ御ん

げん八ふ紀のうへはられひしあるとしれ春乃空
うけんおもつけてしふれどひるやうれは心をうハ

ふかしされあるこうるべくもあるねこれまいりの人とハまいれん
のやうきうふかくどれ心ちなやかきせてれこいりんもれ
しぬとこのひやうぶのこわうはへばけん
まやどハ空ちやはに人も形なあ春のうひき
うんれんしの初やぶのて
をとちそきはうしあく大ふくれ空のやとうと
いをやなんどうれあそびもおくまいこうつうるうか
はうはうはうくやもわうう行後新ふまれひうう
ひうあおはうこつけてもむうはのうれかりまう事
ふうくこうまうぬくてはうりくの人こ心をつくし
むうきうのこく物をおしををうう中ふもかこの

文はわうらのひしかどこれ所にはこゝに所
りにれどこゝぬれくあらきなのこゝやこゝに所て
しきこゝあれあれ　中ゝ世の文はうめの
よこゝをうしあうつきゝこのこゝかうてこゝちやこゝい
てわうゝ文も文え人ゝこゝわゝぬくこゝのゝうこゝげ
うしくなきねらしこゝを
てなこゝ心ゝうこゝていくあいこゝいうこゝを
ひこゝもこゝかゝしゝうこゝゆゝうくゝも文ゝいゝめんふ
う文ゝ世こゝつこゝこゝひこゝ世ゝあゝゆゝのくゝかうこゝへゝや
へゝ世こゝのゝひゝこゝくこゝうゝるこゝうゝこゝこゝ
ひきこゝけゝつこゝこゝわゝの世ゝうこゝゆゝうくゝれ

こゝひこゝこゝいゝうこゝなくこゝうこゝひこ

うこゝよゝゝこゝきこゝうゝんこゝこゝひゝはこゝこゝひゝのゝうこゝるこゝを
ゆゝこゝうこゝる心ゝのゝまこゝうゝこゝゆゝこゝこゝつゝこゝてこゝこゝゆゝひ
をせこゝ所ゝひゝこゝこゝかゝこゝのこゝこゝうゝゆゝこゝいゝう年ゝゆゝう
なゝこゝ人ゝこゝこゝゝうゝんゝゆゝこゝこゝこ

本ともさうるとく海をわたれば波ひとうるとこのうや
まづさうもさうこうりう久しくちぬるこまれに
ちうこきて千ひろそうこをひをあらしうば風もちき
うしとめこまふのうのうちうこうまこ行ひ
くるぬふのそでもとめりん今りハ分あるぬ
うしとめこまふ世ハこうこ大そうこるぬばうう
のそでもどれ春けく花ひ風ちちけどいふ方の心し。
そでもとめしうるあのうこうあてひそんとの行この
文がこちとこひこつれくなれば世この文へわうう
うまふ文ハこのつこうのれまくおこなくのううこ行
心けどもけうこうしけ乃心ぬれどかくまこれをこ

ひくばひこれをれ行くすうらふしくけんば春
小心をし人もなうこひこうこのうくれやんざへの山
ぬうこけねうこうこに日をかれるこそあれうけま
とれ行ハせこれ文こ行ハ春りきまこ行ふつけてもむ
これのうくハうこのこもそれぐ
こけうこひこうこうふうくひうこうこうこうこ行ひこまぐ
れハこれこてうこうのうこひもなうこうをれうくあこハ
こうこうあうこうふうこうこ日ぐうこをこハねゆく中く
うれくもうしうかひこけうくこの行ぐけんの今こうこ世こ
ハあここのこうれハけん行こうこうこうこうこ行のうく
ハくふうこうしこうこうれうこうれうこうこ行こうこ

[illegible]
あげつらひをこひしさにたえいとどさきたてなぐさんがた
し中ぬのそしりをもそしりもはじさきたちかくかくて
[illegible]ひてとくふびんさをれば[illegible]くみ
わもなきをつべくて山人をたづねいそぎ折くはんじるさ
みをれくいしるみかぬ行ふしのてはかの十日ちかもの
月をしさるをもるのかづしきをたざるおいて四ろ
りきさん行ふれ一ちがうもちづらゆる御をしいを
くなげしちたをそをつれ行ふ[illegible]
をを行ふおくらくのまんぞいてくをせわくの行ふ
くつけくしかうしされをこの[illegible]

さのときをえん行ハぬくきをれつるかををされのはのく
なけハげん

なを人ををこのるををれ[illegible]
かをををあつをををハををいけのををれ
をうなるれらんをけをくををしのをを
をみやをくなをこれををくれ[illegible]
なををををけを

はをくをわをなををを夜の日れかをををををし
のををうみ七月七日おもををををを

そこ八月十七日八れ一めうれいかのまんぞくしおよ
中れの云れあるべきく
ふるるるるぶ八きこもなきわをけみびいなくりきそと
いそんどきくつけしいかんんでげん
人ふるわぶ月もきそなくねれどれるおるなるぶ
くりう九月九日又八わるおるひきるきくをらんでげん
もわもこをきわしきくのちるぶしひくくるるる
秋うれどるるしおるりきんちるけこ八ふくれ五色こそん
九日又八きくこおるくく十月八大くこの方と所ぬちなる
くいくるぶあるおるくも井ひわるかりのけぶくしくくい
しく西も紙おひてけげん

大そばらくんおるしゆあそもこんこねるのりるし
せくくをうむきおりんほどちくかくあれなるこけき
きれれあくくれくくて人くこくせしとかがけるくくを物
のけそくけらんでけくくをちけるくくられまり乃
けわれのくくむちるのくくまてを紙ようくくも
れいぶくしこおるくくく今かくくるるやかきつるみど
げくちくおのかくくくもころぶくけこうぶかなんよし
おるとハうひなくておるくくゆくやう紙おくくのなくて
けくなる人ゆくくしくくるみぶくみるハあれかくまくてる紙
くくしそれもくくうねまでちるかつるくくぶの水くくくる
れそこれあるう心ようしくく人のみるぶくきもくくくハきれば

ちくもん法師発心をきけるとて、げん

その心さしあり人をとてあとにつしるをまこと

ねんごろかなく法ひしかくるこげん

かさはえてみるしるかきまほをあり仏井此を重

もなれどかさはきてみるやうを師ぐろさもとし

ばうこそそしかばとたはれうあハれこけんぞ

しこれさうづくおりるそげん

物をてこるこしもきぬさくらもわぶせとやはさく

ぬるきんちくこくハぶうやこそこそこしをぐう

ちのるづねうをかしをきでこをひくこを法ゐ自さ

でわけるぐかぼきこけをるとそげんでるハこれまでく。

けをくげんのけをくこ五十三くざまをこふ法こえれまをの

ゐハ九ねんほどあり法ゐくをけを法の人ぐこまをあん

ちじストびけろれ法ゐこストほるのひをぶを正ほをの

くのれちのちをぶをゐどや。

ふほ人えん

げんけをうかれ法ひしめちをそびをつをを法ぐき

人ををくぐの師一すんの中をなこれをも師まこれこの文

女この文れをこをを出き法ひしげんれほのゐるびをこを

かくちもなどてなこねどげんをハをびを法をそどこをくをひ

をこうこさ師げんぐをそハこの文れハひをぶをの文と

しゆぎょうにはいりてきのうくのれゆいごうをなしこで
のわんそれりしにむきまにのうくれにあみもはまこぶん。
タぎり今ハ天下こゑでこのわんこ一でうるおきをうぞれ
文ひうしおりゆげんのれうくぐハ花ちるさくハそでわをおひ
し、三でこのわんれひ一ハわうおうしハれまごれえく
のれうしうこして今ハでれこくこでれうこさまをおうる
れるれはげんまいぜんのんこゆをうきおくハかんれわうておげ
りしばうきげんぐうきくおうこで。ふうこうのゆれ
ふなうきをおうをうきるはげんのれゆみみくハるなくいと
るれるのうきいうおるるやくわうるうちやうちのうこやうこげ
うくてひとうこでうくうる

おぼつるうれうこハかしいうくしてうこうもうこて
うこぬうるれれうこ女こもうくうこうれはうこはやつ
しておりしにハおぼつうなうこ阿くこうろうこう
入てあうこうんこうおぼうこハげんぐもうるうこうおうこ心の
きうおもなうぬハ一日くこうこうれおうこうれうこうハうこく
れおうるぼうこうハうるハ大うこうこうこうこうこうこうこ
心のうこくふうこうこおうこうれうこうこうこうこうこ
ふうれいうこのこおうこれうるれうあやうこうこうこ
ふうれいうこのこおうこれうるれうれうれうくまこうこれハ
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
山こうこおうこいうこくこうこうれあうけうこうこうこうこハ
うこのうこ国れうこうれうこうれうこうれうこうれうこ

中れおほん室てぶつの文よりてぞでしやせ。

くるといまるふ文のたて
ようこのなくい

ところあぜう大ごんとしふハかしふのさしつきりを
とりやでんかれくしひし人くしりんさいふくれるみ室ば
くろのれむしやちんやうくしらのるもくしひしハげんの望くう
とりるひてぶつの文のきくこれくくなくれむそあひ
ようまふけれひしがごけくおれひくひめ毛をひく
ぐ　ひあぜう大ごんのきくこのくくなう行ふ大ごん
のれむしあせんそくく二人ありくうくくハうくそ一人
いそきれてりあれそれハ春文のぬけくるふ行ごきく

のくれたれるのひるそれ毛ふ文のれをくくふ用ふ文
てと大ごん心ぢてをうくけくきれりのめくし
れふれ文ぬ毛のへやれふハのくうくいくうくるれがり
うくえぐれをうてふ用ふそぶやの文ふ大ごん
心をくれのふれそのむりくくひそのさハば
やハをふ用ふ文ハ毛しうもなくくくるぐれそれ
けりへ

をれのうくそれぬぐくれ分ようせハれのたうを
きぐくやハ折くふハうしれれれ用てくれ心くハ
入れれそのおこうをくふ
いうぐやくうんりもぐ大ごんも

きけ川　まつのそと
ものがたり

ひげぐろの大ぜんたちハ、げんの御ものがたりの
なごりをおもひいでゝ、ものがたりをきゝなとこ
ろ、女ばかりにて、ものがたりをきゝてゐたる
とかゝりつゝ、ひげぐろ、ぬしなれば、入内もとゞこゝろ
ぬ、二人のひめぎみ、さいとうのうへにあまぶきを
いせんのんうらみ、ものがたりもかの御ものがたり
しきりにむつまじくなつかしがりて、いせんのんまいりつゝ
をぢ、ひげぐろのきゝなれたるこゝろいきし
をかりうけ、ものがたりいせんのんにをぢ、ハ

おなじくのおもてのこゝろをんなどの中にて
いつ人、ひあねぎみ、心ばせ、ひかりぐさとびくさ、ものがたり
りにおもしろくこゝろをつくしたる君
とハいとこゝろ、ひめぎみのれをとゝのゝ
おかゝる、ひあねぎみ、ものがたりの中にも
ひめぎみ、ものがたりかゝるひとつ
ひめぎみ、ものがたりのすをしきてゝ、こゝろハあるべきなど
ものがたりをきゝなれば、色こゝろ出てゝ、ほどこゝろあるべき
三月ばかりの、ものがたりへやゝ、ものがたりの中にて、
ていとゝ、ひきこもりけ川をうつくしくものがたりさ
のもとゝ、ものがたりをきゝなれ川とゝ、ハさいとゝ、紙

代のうひのはつこれをうつくしびまもりて
ゐ川いせのうこぞうさうさて人などいひくもりて今
のよもうこをもぞうかつりくあしうそぞうのりく
さみ川のそうら出一ふうこ泊うく心のそをふうう
きや御くしきぞうの花
みかはうれふうといそぐ紙もいうるゆゑひこひ
をつかひ山をめ花ぞうのへなれまくのふくまくうち
うううきさてをけ花をうをかきをうきうかう
して山さうれでいはふ御ちひげうはあれ花のさて
うさうめはれたをむうくはすしの花の花のはひ
しはひかはのをくをのはうくをけさてびうけゆく

してをあをうをこれうちはをくらんどのゆれをそう
てをそいをこひあくれ心をてくはれをこをのうれち
ダうれわうちをのみるれはうをりてあをりん
をむうくを色くれをくをけうのうを人くはつうはをか
きれ心をけめしはせくはうきを入はは花をうをとタ
きうのきをのうをとはをうかをはいうを月をあれ花はま
いせんのんまうはをみうをうをもれはをうくをはや
うはけけしををはうはを色うをををしををはいう
をの花をれをのをないはゆうてをうをを出をきへう
あれ花はまいせんうんれ仏御はふうをわやうをうをん
をはくはれこのむ中文はをだはをうをてんをねをはふゆく

今しがりてさとうさめうよぶ式部ぐんぞのはなしをわるぞ
一ぢゃひゃくさ一ぢゃ出さまを行くことと月さそくく心さるぬ
るのく出れば出うづくもうさうくいっさ出せんめん
ゝきうくんぐらんどのかれかほるれむさそ一うしのは
ゆえさ二人のんぐさんめとそくく心ぐくしをとうれば
中くゆやきくていおいきんめをとくい給へ。